

農業経営移譲制度の実現を



山崎文久議員

山崎文久議員 農業、それは人間が生きてゆくための、食料の生産を行う生命産業である。そして、農業は人間の営みを支え、農業の舞台である農地は、国土を支えている。しかし、今、その生命産業も高齢化が進み、後継者不足に悩んでいる。なぜ、若者が農業を職業としないのか。よく言われる「三K」のきつい、汚い、危険、他にも所得の不安定とかいろいろあるが、問題の一つに、老後の生活の心配があるのではないだろうか。農業者には、退職金がない。あてにしていた農業者年金も来年から制度が変わり、国民年金も今の生活水準では、厳しいものがある。

町長は、九月議会のなかで、農家の経営移譲について触れ

後継者や農業を志すものに資産を売却し、退職金として老後に備える制度の必要性を国や県に働きかけ、制度の構築に向けて努力していくとの答弁があった。考えてみれば、

ごく当たり前のことで、会社経営も商業も農業も一つの職業であり、すべてマネーゲームである。今、日本の農業は国際レベルでの競争を余儀なくされている。日本でこのような制度が構築、醸成されるなら、経営者も安心して資産の取得や経営の充実に邁進でき、日本農業も明るい展望が開けるのではと期待できる。今後の取り組みは。

北村町長 親から安定した経営を引き継ぎ、農業経営を行う場合には、子供等が親から財産等を買収する制度は、今のところ我が国にはない。単なる経営の移譲ということではなく、親が子に、あるいは後継者または第三者に農業資産を売却し、それを退職金と

する。農業者は長年の労働への報酬、離農後の生活設計に結びつけてくるのではないか。ヨーロッパには似たような制度があり、経営安定のための類似制度は世界中どこにでもある。

このようなことは、本町だ

おしどり橋下流兩岸の整備の考えは

山崎議員 私たちが旅行をするとき、一番多く行く所とい

えば、風光明媚な自然の山、川、湖、それに四季折々の花

けの問題ではなく、日本農業の根幹に関わる問題であるので、県や国会議員にも働きかけ、国による無利子の融資制度の創設等、鹿児島県の提案として実現できるように最大限の努力をしていきたい。

や紅葉、雪といっ

たところではなからうか。私がおしどりの橋か

工林等も伐採をし、後には紅葉樹の植栽をしたり、ガイドレールも風景にマッチしたものに替える等、自然を生かし、手を加えないありのままを生かす方向で整備できないか。

町長 おしどり橋からの眺めは、上下流の両岸とも広葉樹がうっそうと茂って、渓谷をなして、眺望の良く奇岩も多くあり、雄大な眺めでもある。来年四月に一部開園する県立北薩公園のサブ的な自然公園として、大きな役目を担うと考える。夏には蛍の乱舞も見られ、いかだ下りもある。県立公園のイベントのひとつとして活用できればと考える。また、兩岸の山や河川敷に、もみじ等の植栽を行えば、県立公園と連動した秋の行楽の場としても活用できると思う。可能な限り、豊かで雄大な自然を残したいが、大半が民有林である。自然林の改良、人工林の間伐等、所有者の協力を得られるよう努めたい。



おしどり橋下流